

## 海外感染症流行情報(2011年10月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・洪水被害と感染症

タイやカンボジア、ベトナムなどの東南アジア諸国で洪水の被害が拡大しています。タイでは北部・中部を中心に、10月中旬までに300人以上の死者や行方不明者が発生しました(外務省海外安全ホームページ 10月20日)。こうした洪水被害にともなって、被災地では感染症の流行が危惧されています。

まず洪水の直後におこるのが、コレラ、赤痢、腸チフス、A型肝炎など経口感染症の流行です。被災地では飲食物が、この種の病原体で汚染されている可能性があるため、摂取には十分に注意する必要があります。またA型肝炎については事前にワクチン接種を受けておくことを推奨しています。

次に皮膚からかかる感染症で、これにはレプトスピラ症や破傷風があります。レプトスピラ症はドブネズミが保菌動物で、その尿に病原体が排泄されます。ヒトはこの病原体で汚染された水に接触することで感染します。フィリピンのセブ島やマニラ近郊では、今年の9月末までに2,000人以上の患者が発生しており、昨年同期に比べて2倍以上の数となっています(検疫所HP 2011年10月20日)。被災地で皮膚が汚水に触れた場合は、清潔な水で十分に洗ってください。破傷風については事前にワクチン接種を受けておくことを推奨します。

もう一つは蚊に媒介されるデング熱やマラリアなどの感染症です。洪水が引いた後の水溜りは蚊の繁殖に格好の場所となります。このため、被災地では洪水の1~2カ月後にデング熱やマラリアが大流行をおこすことがあります。この時期には蚊の対策をとることが必要です。

WHOは洪水時の感染症対策について下記ホームページで情報提供を行っています。

[http://www.who.int/hac/techguidance/ems/flood\\_cds/en/](http://www.who.int/hac/techguidance/ems/flood_cds/en/)

### ・中国でポリオ患者の発生が続く

中国衛生当局は今年の7月、新疆ウイグル自治区で4例のポリオ患者が発生したことを報告しました。その後、10月中旬までに18例の患者が確認されています(WHO Western Pacific Region 2011-10-21)。患者の半数は3歳以下の小児ですが、残りの半数は成人です。これは同地域でポリオの流行が持続していることを意味するとともに、他の地域にも拡大する可能性を示唆しています。こうした状況を受けて米国CDCは、同地域だけでなく中国に滞在する渡航者全員にポリオワクチンの追加接種を推奨しています(CDC Travelers' Health 2011-10-11)。

日本では小児期に経口生ワクチンを2回接種していますが、追加接種にあたっては経口生ワクチンなら1回、注射用不活化ワクチンなら2回の接種が推奨されます。とくに1975年~1977年生まれの方は小児期のワクチン接種による抗体獲得率が低いため、追加接種を受けるようにしましょう。

### ・ヨーロッパでの麻疹流行は鎮静化

ヨーロッパでは今年の春に麻疹の流行がみられましたが、現在は鎮静化している模様です (Europe CDC 2011-10-18)。ヨーロッパCDCの報告によれば、今年の流行ピークは4月～5月で、フランスでは5月だけで3,000人以上の患者が発生しました。その後、患者発生数は減少し、8月の時点で大きく流行している国はみられません。今年のヨーロッパでの患者数は8月までに約26,000人で、国別ではフランスが13,000人以上と半数を占めています。

なお、今年での日本での麻疹患者数は10月中旬までに約400人で、2008年の11,000人に比べて大幅に減少しています (国立感染症研究所・感染症情報センター 2011-10-18)。

#### ・東南アジアでのデング熱流行

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、東南アジア諸国でのデング熱患者の発生数(9月末まで)は昨年に比べて同等かやや少ない状況です (WHO Western Pacific Region 2011-10-11)。国別ではフィリピンで7万人以上、ベトナムで3万人以上、カンボジアで1万人以上が報告されています。ただし、西太平洋事務局の担当にはタイやインドネシアが含まれていないため、これらの国々の状況は報告されていません。

#### ・インフルエンザ流行状況

WHOの発表によれば、10月中旬の時点で北半球ではインフルエンザの流行はみられていません (WHO Global Alert and Response 2011-10-21)。南半球ではオーストラリアとニュージーランドで、まだ流行が続いていますが、ピークは越えた模様です。ウイルスの種類として、オーストラリアではA(H1N1)2009型とB型の2種類が主に検出されています。

なお、WHOは10月初旬に来年の南半球で使用するインフルエンザワクチンの組成を発表しました。その内容はA(H3N2)香港型、A(H1N1)2009型、B型の3種類からなっており、基本的には今年、北半球で使用するワクチンと同じ組成です。

[http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/recommendations/2011\\_09\\_recommendation.pdf](http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/recommendations/2011_09_recommendation.pdf)